

用語集(生活環境の保全に関する環境基準:水質汚濁防止法)

用 語	説 明
生活環境項目	生活環境項目は、生活環境に影響を及ぼす恐れのあるものとして定められた項目をいい、現在、pH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、COD(化学的酸素要求量)、DO(溶存酸素量)、SS(浮遊物質)、大腸菌群、n-ヘキサン抽出物質含有量、全窒素、全リンの9項目について定められている。 環境基準は、河川、湖沼、海域別に水道、水産、農業用水、工業用水等の利用目的に応じた類型によって基準が定められ、排水基準も健康項目と同様に項目別に定められている。
pH(水素イオン濃度)	溶液中の水素イオン濃度を表す数値で、7が中性、それより小さい値になると酸性が強まり、大きい値になるとアルカリ性が強まる。日本の河川では通常 7.0 前後である。 河川のpH が高くなる原因には、夏の時期など植物プランクトンの光合成による二酸化炭素の消費や、産業排水や生活排水などアルカリ性排水の流入などが考えられる。
DO(溶存酸素量)	水中に溶解している酸素量で、自然水域では酸素は大体飽和していると考えられる。溶存酸素は、水中の魚介類や好気性微生物等の呼吸に使われるので、欠乏すると魚介類のへい死や水の腐敗等が起こる。DO は有機物による汚染の著しい水域ほど低い濃度を示し、飽和量の 50%が魚介類の生存限界といわれている。
BOD(生物化学的酸素要求量)	河川水中の有機物が微生物によって分解される際に消費される酸素の量をいう。河川水中の有機物は、水中の微生物により酸化分解され、炭酸ガス、水、アンモニア等になる。数値が大きいほど、水中の有機物が多いことを意味し、水質が悪いと判断される。

SS(浮遊物質)	水中に浮遊する粒径2mm以下の水に溶けない懸濁性の物質をいう。水の濁りの原因となるもので、魚類のエラをふさいでへい死させたり、日光の透過を妨げることによって水生植物の光合成作用を妨害するなどの有害作用があり、また、有機性浮遊物質の場合は河床に堆積して腐敗するため、底質を悪化させる。
----------	--